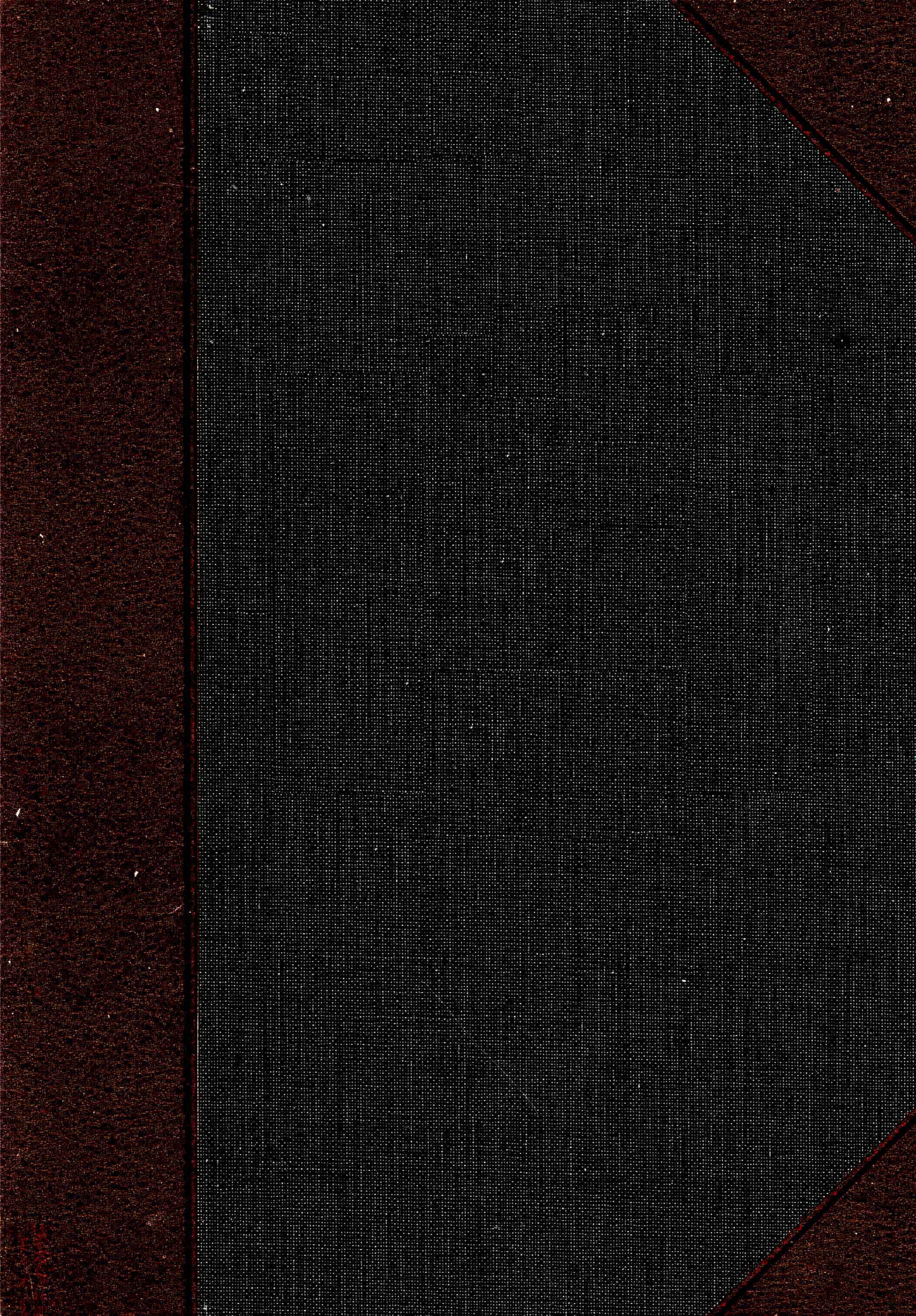




阿部重孝
城戸幡太郎
佐々木秀一
篠原助市
編輯

教育學辭典 第一卷

岩波書店刊行

昭和十一年五月二十五日 印刷
昭和十一年五月三十日 第一刷發行

定價七圓五拾錢

編輯者代表

城戸幡太郎

發行者

東京市神田區一ツ橋二丁目三番地

印刷者

東京市牛込區市谷加賀町一丁目
菊地眞次郎

刷印社會式株刷印本日大

版權所有



發行所

東京市神田區
一ツ橋二丁目三番地

岩波書店

電話(33)
九段一〇〇一八七番
一〇一八九番
振替口座東京七四四一六番
(小賣部専用)
一〇一八八番
一八〇番

(岡山製本)

序

國家社會の革新が教育を度外視しては到底畫策され得ないと考へられるやうになつた現代に於ては、教育は獨り教師の學ぶべき知識技術であるばかりでなく、社會に於ける一般の教養として國民の修むべき常識となつて來た。従つて現代の國家は學校は固より家庭教育・社會教育・保護教育等に關して廣汎なる國民的教養を要請するやうになつた。然るに此等に關する知識や技術を一般の教育書によつて學ぶことは多大の時間と勞力とを要するのみならず、時機に必要な問題の解決に應ずるための參考としては頗る不便である。辭典が一般の著述に對して有つ特徴は主として此の時機に必要な問題解決の參考として役立つことである。それ故に現在の我國に於ては此の目的を果し得る完全にして便宜な教育辭典の出現が大いに必要である。外國には既に數種の教育大辭典が刊行され或は大修正を加へられたものもあるが、それ等は直に我國に於ける問題解決の參考となるものではない。我等は自國の教育を問題とせねばならないから、我國に於ける教育辭典は自ら獨自な立場によつて編纂されねばならぬ。曩に同文館の教育大辭書が刊行されたが既に二十年を経過し、現在では教育的科學の進歩に照して其の内容の改正が必要であり、最近二三の教育辭典が刊行されたが、専ら簡約を旨とし

た結果、問題の十分な理解に困難を感じずるやうである。本辭典はかゝる缺陷を補ふために編纂されたもので、我國の教育を中心として項目を選定し、又一つの問題を充分に理解せしむるために大項目主義を採り、特に項目相互の聯關に注意した。而も辭典の目的としては、何よりも一二の學說に偏せず、出來るだけ公平な立場から正確な概念を闡明することが必要であるから、本辭典は専らこの目的に副ふことに努めた。殊に個々の問題に對する新しき研究の結果並に創意に富める解釋は本辭典によつて始めて知ることのできるものが少くない。各項目に對する執筆者署名の意義も之によつて認められるであらう。

かくて吾等は本辭典の公刊を以て我國に於ける教育文化の水準を高めたものと信じ深く之を悦ぶものであるが、それは偏に執筆者諸賢が此の事業に對して寄せられた深き理解と貴き協力との賜である。こゝに特記して衷心感謝の意を表する次第である。

昭和十一年五月

編
輯
者

I 編輯基礎方針

(一) 項目の採擇範圍は次の如くである。

學校教育

教師及び學生

一般方法論

各科教授論

言語教育

理科教育

歷史教育

技術教育

修身教育

分發發育

學松菴生

學校建築

就學前の教育

家庭教育

社會教育

都市及び農村教育

特殊教育

天才兒及び劣等兒教育

治療教育
性教育

盲人教育 聾啞者教育

不具不孝下 休詔孝下

職業指導

教育關係科學

哲學 論理學 倫理學

美學 宗教學 心理學

學
政
台
學
經
齊
學

人類學
生物學
生理學學
精
神
病
學
優
生
學

日本人名(現存人物を除く)

外國人名

(二)項目は大體に於て大項目主義により、小項目は大項目中にて併せ解説するやうにした。従つて其等の小項目の檢索には別卷の索引を利用され度い。

(三) 各卷には巻頭にそれぞれ目次を附すが、別巻には邦語及び歐語による索引と共に、自學の便に資するため系統的に分類した索引を併せ掲げ、其他教育史年表等をも附載する。

II 項目名掲出法

(一) 項目名の表音法は大體次の如く定めた。

(1) 邦語の項目名に於ては、表音的假名遣により、

(イ) キ・エ・ラはイ・エ・オを以て示し、クワグワはカガチヅはジズに統一する。

(ロ) イと發音するヒはイ、エと發音するヘはエ、オと發音するホフはオワと發音するハはワとする。

(ハ) 長音はウで表はし、アウアフウ等はオウに、カウカフコフ等はコウに、タウタフ等はトウに、ハフホフ等はホウに、ヤウエウエフ等はヨウに、イフイウ等はユウに統一する。以下ソウ、ノウ、モウ等皆同様である。

(ニ) 拗音はキユ・キウ、シュ・シユ、チュ・チユ、ニユ・ニウ、ビユ・ビウ、リユ・リウ、キヨ・キョウ、シヨ・ショウ、チヨ・チョウ、ニヨ・ニョウ、ヒヨ・ヒョウ、ミヨ・ミョウ、リヨ・リョウを用ひる。

(ホ) 促音はツを用ひる。

(2) 歐語の項目名に於ては、我國の慣用に從つたものもあるが、なるべく原音に近からしめることに努め、

(イ) 原綴 tz・z 等にてその發音が音標 ts に相當するものはツ(ツァ・ツイ・ツエツオ)と表はす。

(ロ) 原綴 di はデイ、ti はテイと表はす。

(ハ) 原綴 f・ph・v 等にてその發音が音標 f に相當するものはフ(ファ・ファイ・フェフオ)と表はす。

(ニ) 原綴 v・w 等にてその發音が音標 v に相當するものはヴ(ヴァ・ヴィ・ヴェヴォ)と表はす。

(ホ) スペイン語の v はバ行に含め例へば *Viagra* はビーベスの如くする。

(ヘ) 長音はーで表はす。

(二) 項目名の序列は、上記の如き假名遣により、五十音順とした。序列上なほ注意すべき點は次の

通り。

(1) 濁音字・半濁音字は清音字として取扱ふ。

(2) 長音記號のーは考慮に加へない。

(3) 促音のツ、其他送假名例へばヴァ・ヴィ・ツィ・テュのアイユの如きは凡て獨立した一字として取扱ふ。

III 解説敘述體裁

(一) 日本・支那の人名等の固有名詞の項目にて必要あるものには、各項目名の下に歴史的假名遣にて音訓を附記した。

(二) 西洋の人名の項目には原綴をローマ字にて附記した。

(三) 人名の項目名の下にはその生歿年月日を附した。日本・支那人名に於ては年・月・日の順に記載し、西洋人名に於ては年數の次に月日を小型數字を用ひて記載し、例へば十一月三日は $\frac{11}{3}$ の如く表はす。

(四) 日本及び支那の年號には對照の便の爲、アラビア數字にて西曆紀元の年數を併記した。

(五) 西曆紀元前は單に前を以て示し、西曆紀元年數にて前後の關係より分明なる場合には千と百の桁を省略した。

(六) 項目名に正確に該當する外國語の術語あるものは之を項目名の下に掲記した。

(七) 〔英〕〔獨〕〔佛〕〔伊〕〔露〕〔和〕〔西〕〔希〕〔拉〕〔梵〕〔巴〕は英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロシア語・オランダ語・スペイン語・ギリシャ語・ラテン語・梵語・巴利語の略字として用ひた。

- (八) 引用符は「」を用ひ、特に『』は書名、雑誌名、論文名等を示す。
- (九) 参照符號 * 印を附したものは他に一項目として説明せるものなることを示し、特に参照を必要とする場合にのみ之を附した。
- (十) 各項目には解説文の末尾に、又は一項目の各節がその執筆者を異にする場合にはその各節の末尾に執筆者の氏名を記載した。
- (十一) 各項目の末尾には邦文・漢文及び歐文の参考文献を掲げた。
- (十二) 文獻は大體に於て編著者名・書名・卷數・發行年の順に記し、邦文・漢文文獻にあつては書名を「」にて示し、歐文文獻にあつては編著者名をイタリック體にて示した。
- (十三) 同一著者による數文獻を並記する場合には著者名の反復を略し、文獻間に、又は；を用ひて之が連絡を示した。
- (十四) 歐文文獻にて發行年の左上に附した小型の數字は版數を示す。例へば 1931 は第三版が一九三一年に出たことを表はす。
- (十五) 單行本及び雜誌に所收所載の論文に就ては其等の書名・誌名を（ ）中に示した。
- (十六) 歐文文獻にて邦譯あるものは可及的に之を（ ）中に附記した。

第一卷 執筆者

(五十音順)

東京帝國大學助教授	青木誠四郎	文部省體育課長	醫學博士 岩原拓
文部省圖書監修官	碧海康溫	東京帝國大學助教授	上村福幸
文華高等女學校學監	秋葉馬治	東京盲學校授業囑託	梅津八三
東京帝國大學教授	阿部文夫	茨城縣師範學校教諭	梅根悟
東京帝國大學教授	阿部重孝	東京帝國大學教授	文學博士 大西克禮
東方文化學院東京研究所助手	阿部吉雄	大原社會問題研究所研究員	大林宗嗣
京城帝國大學教授	安倍能成	東北帝國大學助教授	大脇義一
東京帝國大學文學部助手	飯田晁三	文化學院教授	岡部彌太郎
武藏野學院醫官	伊佐喜久雄	東京帝國大學助教授	岡部彌太郎
帝國美術院會員	石井柏亭	奈良女子高等師範學校教授	小川正行
法政大學講師	石川謙	東京府立松澤病院醫員	奧田三郎
臺北高等學校教授	石黑魯平	鹽見理化學研究所長	理學博士 小倉金之助
青山學院教授	石谷信保	廣島文理科大學教授	文學博士 長田新
東北帝國大學教授	石原謙	東京帝國大學文學部副手	尾島碩心
東京高等師範學校教授	石山脩平	早稻田大學講師	小田內通敏
廣島文理科大學助教授	稻富榮次郎	東京帝國大學文學部新聞研究室主任	小野秀雄
東京帝國大學教授	入澤宗壽	東北帝國大學教授	小山鞆繪
	文學博士 岩下壯一	東京帝國大學教授	河合榮治郎

東京帝國大學助教授
東京帝國大學教授
東京文理科大學助教授
國學院大學豫科教授
東京聾啞學校教諭
全日本勞働總同盟主事
武藏野學院長
法政大學教授
倉敷勞働科學研究所員
東京高等師範學校教授
東京音樂學校講師
九州帝國大學教授
東京女子高等師範學校教授
同附屬幼稚園主事
大妻技藝學校教諭
京都帝國大學文學部講師
京都帝國大學名譽教授
成城學園幼稚園主事
東京高等師範學校助教授
慶應義塾大學教授
東北帝國大學教授

醫學博士
海後宗臣
柿內三郎
加藤仁平
文學博士
兼常清佐
川又武
川本宇之介
菊川忠雄
菊池俊諦
城戶幡太郎
桐原葆見
文學博士
日下部重太郎
草川宜雄
藏內數太
倉橋惣三
黑川喜太郎
高山岩男
小西重直
小林宗作
小林信明
小林澄兄
文學博士
小宮豐隆

文部省(社會教育局)囑託
九州帝國大學教授
東京高等師範學校教授
同附屬小學校主事
廣島高等師範學校教授
奈良女子高等師範學校教授
文部省教育調查部長
東京文理科大學教授
文部省建築課長
京都帝國大學法學部講師
東京女子高等師範學校教授
東京女子高等師範學校長
京都帝國大學教授
廣島文理科大學講師
東京帝國大學助教授
東北帝國大學教授
龍谷大學教授
東京文理科大學助教授
文部省督學官

權田保之助
齋藤清衛
文學博士
佐久間鼎
佐々木秀一
定宗數松
佐藤熊治郎
佐藤信衛
眞田幸憲
篠原助市
柴垣鼎太郎
島芳夫
文學博士
下田次郎
下村壽一
新村出
皇至道
高木貞二
高瀬代次郎
高橋里美
高橋俊乘
武政太郎
龍山義亮

國學院大學教授	田邊尚雄
京城帝國大學教授	田花爲雄
文部省社會教育官	千葉敬止
東北帝國大學教授	千葉胤成
京城帝國大學豫科教授	文學博士 津田榮
東京文理科大學教授	文學博士 寺澤嚴男
東京府立高等學校教授	寺田范三
東北帝國大學教授	土居光知
東京帝國大學教授	戶坂潤
法政大學講師	戶田貞三
文部省社會教育官	留岡清男
日本女子大學校教授	中田俊造
法政大學講師	生江孝之
	西尾實
	野上豐一郎
法政大學講師	波多野完治
法政大學講師	林達夫
京城帝國大學總長	文學博士 速水滉
東京聾啞學校長	樋口長市
文部省事務官	日田權一
日本圖書手工協會長	伯爵 平田榮二

フェリス和英女學校教諭	醫學博士 平塚益德
愛育會調查會委員	廣瀬興
國民精神文化研究所員	海軍大佐 廣瀬豐
文部省(教育調查部)囑託	伏見猛彌
淺野綜合中學校教諭	船越源一
東北帝國大學助教授	古木弘造
東京帝國大學文學部助手	細谷恒夫
東京女子高等師範學校教授 同附屬小學校主事	堀七藏
東方文化學院東京研究所助手	牧野巽
司法書記官 東京控訴院檢事	正木亮
滋賀縣師範學校教諭	松田健
京城帝國大學教授	松月秀雄
九州帝國大學教授	松濤泰巖
浦和高等學校教授	松村武雄
日本女子大學校兒童研究所囑託	文學博士 松本金壽
東京市立學校兒童教育 健康相談所教育主任	松本彥三郎
橫濱高等工業學校教授	三上義夫
東京高等師範學校附屬小學校囑託	三井透
東京帝國大學名譽教授	水島修三
	法學博士 美濃部達吉

東北帝國大學助教授	三宅剛一	
日本放送協會囑託	三宅武郎	
文部省(實業學務局)囑託	宮島清	
東京帝國大學文學部助手	宗像誠也	
東北帝國大學教授	村岡典嗣	
文部省(教育調查部)囑託	村上俊亮	
東京文理科大学學長	森岡常藏	
東京文理科大学教授	諸橋轍次	文學博士
大正大學教授	矢吹慶輝	文學博士
東京高等師範學校講師	山極眞衛	文學博士
東京高等學校教授	山口察常	文學博士
東京女子專門學校講師	山下德治	
東京高等師範學校教授	山下俊郎	
二松學舍專門學校長	山田榮	
外務省文化事業部第二課長	山田準	
東京帝國大學名譽教授	柳澤健	文學博士
東京帝國大學醫學部講師	吉田熊次	
上智大學教授	吉益脩夫	
東京文理科大学助手	吉滿義彦	
東京美術學校教授	依田新造	
	和田三造	

國民精神文化研究所助手
東京帝國大學教授

文學博士
渡邊幾治郎
渡邊誠
和辻哲郎

編輯者

阿部重孝
城戸幡太郎
佐々木秀一
篠原助市

編輯事務擔當

城戸幡太郎
留岡清男
澤田慶輔

校正

岩波書店校正部

(執筆者なきは参照項目)

ア

愛育會	アイデテイク	アインハイツシューレ	アウイー	アウグスティヌス	アカデミー	惡	アクセント	惡癖	アグリコラ	安積良齋	足利學校	足利時代の教育	アスカム	アッシリアの教育	アテネの教育	アテネの大學	跡見花蹊	アドラー	アニミズム	アーノルド(トマス)
.....																				
(高橋里美)	(留岡清男)	(依田 新)	(秋葉馬治)	(稻富榮次郎)	(阿部重孝)	(吉滿義彦)	(佐久間鼎)	(青木誠四郎)	(石山脩平)	(石川 謙)	(加藤仁平)		(石山脩平)	(平塚益徳)	(石山脩平)	(稻富榮次郎)	(海後宗臣)	(吉滿義彦)	(波多野完治)	(篠原助市)
一	二	三	四	四	五	六	七	八	九	九	一〇	一一	一二	一二	一三	一四	一五	一五	一六	一六

アーノルド(マッシュュー).....	(山下徳治)	二
阿佛尼.....	(高橋俊乗)	一八
アフリカの教育.....	(村上俊亮)	一八
アペラルツス.....	(稻富榮次郎)	一九
アボッツホルムの學校.....	(飯田晁三)	二〇
アミエル.....	(林 達夫)	二
アームストロング法.....	(眞田幸憲)	二
雨森芳洲.....	(加藤仁平)	二
アメリカ合衆國の教育.....	(阿部重孝)	三三
アラビアの教育.....	(石谷信保)	三七
アラン.....	(山下徳治)	二七
アリストテレス.....	(稻富榮次郎)	二六
アリストテレス主義.....	(石原 謙)	二九
アルクイヌス.....	(稻富榮次郎)	三三
アルコット.....	(長田 新)	三三
アルコール問題.....		三三
アルステッド.....	(梅根 悟)	三三
アルテンシュタイン.....	(皇 至道)	三三
アルトナ案.....	(阿部重孝)	三三
アルファベット.....		三三
アルフレッド大王.....	(稻富榮次郎)	三三
アルベルツスマグヌス.....	(稻富榮次郎)	三三
アレキサンドリアの學術と教育.....		三三
暗記.....	(石山脩平)	三三
暗算.....	(松本彦三郎)	三四
暗示.....	(波多野完治)	三四
諧謔法.....	(松本金壽)	三五

イ

アンテ・イオキアの學術と教育	(石山脩平)	三六
アンデルセン	(松村武雄)	三六
イ		
イエスキリスト	(石原謙)	三七
イエス社		三八
家出	(留岡清男)	三八
イエナ大學及び附屬學校	(伏見猛彌)	三九
イエナ・プラン	(伏見猛彌)	三九
イエール	(川本宇之介)	四〇
イエール大學	(村上俊亮)	四〇
醫學教育	(柿内三郎)	四一
醫學教育機關	(高瀬代次郎・石川謙)	四四
醫學專門學校	(飯田晁三)	四七
醫科大學	(飯田晁三)	四七
意義		四七
異教主義教育	(石山脩平)	四七
イギリスの教育	(宮島清)	四八
育兒院	(留岡清男)	五一
伊澤修二	(田邊尚雄)	五一
意志	(大腸義一)	五一
石井十次	(長田新)	五四
意識	(速水滉)	五四
意識障礙	(吉益脩夫)	五五
石田梅巖	(石川謙)	五六
異常反應	(吉益脩夫)	五六
維新史料編纂會	(村上俊亮)	五八

オ

エビクロス學派……(石原 謙・稻富榮次郎)……………	二四	大鹽中齋……………(加藤仁平)……………	一七	オランダの教育……………(日田權一)……………	一五七
エビクロス主義……(石原 謙・稻富榮次郎)……………	二五	大島有隣……………(石川 謙)……………	一六	オリゲネス……………(稻富榮次郎)……………	一五九
繪本……………(細谷俊夫)……………	二五	太田錦城……………(加藤仁平)……………	一六	オリンピク競技……………	一五九
エマーソン……………(山下德治)……………	二五	大谷大學……………(伏見猛彌)……………	一六	音韻學……………(佐久間鼎)……………	一五九
江村北海……………(石川 謙)……………	二六	大槻文彦……………(海後宗臣)……………	一六	音樂……………(田邊尙雄)……………	一五九
エラスムス……………(石山脩平)……………	二六	大原幽學……………(石川 謙)……………	一六	音樂學校……………(飯田晃三)……………	一六三
エリウゲナ……………(稻富榮次郎)……………	二七	應用社會學……………(戸田貞三)……………	一四〇	音樂教育……………(兼常清佐)……………	一六三
エリオット……………(飯田晃三)……………	二六	應用心理學……………(桐原葆見)……………	一四二	音樂教育史……………(田邊尙雄)……………	一六五
エリザベス編制法……………(阿部重孝)……………	二六	王陽明……………(山田 準)……………	一四二	音樂教材史……………(田邊尙雄)……………	一六五
エルンスト・デルフロンメ……………(梅根 悟)……………	二六	往來物……………(石川 謙)……………	一四三	音樂教授……………(草川宜雄)……………	一六六
演繹法と歸納法……………(高橋里美)……………	二六	岡倉覺三……………(海後宗臣)……………	一四四	音樂の心理……………(尾島碩心)……………	一七〇
演藝……………(權田保之助)……………	二六	緒方洪庵……………(海後宗臣)……………	一四四	恩給……………(森岡常藏)……………	一七三
園藝……………(千葉敬止)……………	二六	緒方塾……………(海後宗臣)……………	一四四	音響……………(尾島碩心)……………	一七三
園藝學校……………(宮島 清)……………	二六	岡田良平……………(海後宗臣)……………	一四四	音聲……………(佐久間鼎)……………	一七六
演劇……………(權田保之助)……………	二六	岡山醫科大學……………(伏見猛彌)……………	一四四	音聲學……………(佐久間鼎)……………	一七六
演説法……………(石黒魯平)……………	二六	岡山藩學校……………(石川 謙)……………	一四四	音讀と默讀……………(松本金壽)……………	一七九
遠足……………(松田 健)……………	二六	荻生徂徠……………(加藤仁平)……………	一四四	女孝經……………(牧野 巽)……………	一七九
		オシェー……………(宗像誠也)……………	一四六	女四書……………(牧野 巽)……………	一七九
		オスウィーゴ運動……………(長田 新)……………	一四六	女大學……………(石川 謙)……………	一八〇
		オスカール・ヘレネ・ハイム……………(伏見猛彌)……………	一四六	音標……………(石黒魯平・佐久間鼎)……………	一八〇
		オストラリアの教育……………(飯田晃三)……………	一五〇	恩物……………(小林宗作)……………	一八三
		オーストラリアの教育……………(龍山義亮)……………	一五一		
		オックスフォード大學……………(村上俊亮)……………	一五三		
		オットー……………(山下德治)……………	一五四		
		オーデンワルト・シュレ……………(伏見猛彌)……………	一五五		
		オニールの學校……………(伏見猛彌)……………	一五五		
		オーベルリン……………(入澤宗壽)……………	一五五		
		オラトリ派……………(平塚益徳)……………	一五七		

カ

繪畫……………(平田松堂・石井柏亭・佐藤熊治郎)……………	一八三
開化史的段階……………(小川正行)……………	一八六
懷疑派……………(稻富榮次郎)……………	一八七
懷疑論……………(小山綱繪)……………	一八七

階級と教育	(山下徳治)	一八	科學博物館	(城戸幡太郎)	二七	學派	(安倍能成)	二四三
回教	(石谷信保)	一九	書き方教育	(城戸幡太郎)	二七	學務委員	(村上俊亮)	二四三
海軍教育	(廣瀬 豊)	一九	書き方教育史	(石川 謙)	三八	革命	(城戸幡太郎)	二四四
會合	(松田 健)	一九	書き方教材史	(水島修三)	三〇	革命的教學學	(山田 榮)	二四六
外國語學校	(飯田晁三)	一九	書き方教授	(水島修三)	三二	學用品	(細谷俊夫)	二四六
外國語教授	(石黒魯平)	一九	書き方の障礙	(吉益脩夫)	三三	學齡	(阿部重孝)	二四六
外國人學生	(飯田晁三)	一九	書き方の心理	(武政太郎)	三四	學齡兒童就學獎勵規程	(船越源一)	二四七
外國福音傳道教會	(平塚益徳)	一九	夏期學校及び冬期學校	(日田權一)	三五	學齡簿	(船越源一)	二四七
外國文學	(土居光知)	一九	書き取	(日下部重太郎)	三六	嶽麓書院	(阿部吉雄)	二四七
解釋	(西尾 實)	二〇	學位	(飯田晁三)	三六	家訓	(石川 謙)	二四八
解釋學	(城戸幡太郎)	二〇	格言及び諺	(佐々木秀一)	三九	家系研究	(阿部文夫)	二四九
開成學校	(海後宗臣)	二〇	學事統計	(村上俊亮)	三九	可型性	(細谷俊夫)	二五〇
懷德堂	(石川 謙)	二〇	學習	(青木誠四郎)	四〇	掛圖	(黒川喜太郎)	二五〇
概念	(速水 滉)	二〇	學習院	(海後宗臣)	四三	家事教材史	(黒川喜太郎)	二五〇
開發教授	(樋口長市)	二〇	學習館(和歌山)	(石川 謙)	四三	家事教授	(黒川喜太郎)	二五三
貝原益軒	(石川 謙)	二〇	各種學校	(船越源一)	四三	過失	(正木 亮)	二五五
開放學校	(廣瀬 興)	二〇	學術研究會議	(村上俊亮)	四四	家塾及び私塾	(石川 謙)	二五五
外來語	(石黒魯平)	二〇	學神祭	(城戸幡太郎)	四四	假象	(高橋里美・城戸幡太郎)	二五七
快樂主義	(高山岩男・石山脩平)	二〇	確信犯	(正木 亮)	四五	家政學	(黒川喜太郎・堀 七藏)	二五八
戒律	(矢吹慶輝)	二〇	學生運動	(菊川忠雄)	二五	家政學校	(宮島 清)	二五九
會話	(石黒魯平)	二二	擴聲器	(細谷俊夫)	二七	假說	(戸坂 潤)	二五九
カヴェラウ	(山下徳治)	二二	學生主事及び生徒主事	(村上俊亮)	二七	數へ主義	(戸田貞三)	二六〇
ガウディヒ	(小林澄兄)	二二	學生生活	(宗像誠也)	二八	家族制度	(上村福幸)	二六一
課外活動	(眞田幸憲)	二三	學生生徒の類型	(宗像誠也)	二九	價值教育學	(城戸幡太郎)	二六二
課外讀物及び副讀本	(細谷俊夫)	二三	學生團體	(宗像誠也)	三〇	價值心理學	(細谷恒夫)	二六三
化學	(津田 榮)	二三	學籍簿	(船越源一)	四〇	價值論	(細谷恒夫)	二六三
科學	(三宅剛一)	二四	學則	(船越源一)	四四	學科	(宗像誠也)	二六四
科學の發達と教育	(岡 邦雄)	二六	學年	(船越源一)	四四	學會	(宗像誠也)	二六五